



剣道連盟の段位審査会 斉藤、白沼さん 7段に



7段に昇段した、右から斉藤、白沼さん。左は指導役の徳孝さん

勿来剣友会から 2人が見事昇段 合格率は2割ほど

昨年度行われた全日本剣道連盟の段位審査会で、勿来剣友会の斉藤隆さん（七二）と白沼真由美さん（六八）の二人が「7段」に昇段した。

最高峰の8段に次ぐ、合格率二〇%ほどの難関。斉藤さんは四年前の6段昇段に続き「一発合格」、白沼さんは「市内三人目の女性昇段者」となった。審査会は一分半の立ち合い二回の実技形式で、剣術だけでなく着装や礼法も求められるという。昨年度は国内各地で八回実施され、斉藤さんは昨年八月、白沼さんは今年二月に合格。二人は、コロナ禍の二〇二〇（令和二年）に同剣友会メンバーで立ち上げたサークル「楽しく剣道まなぼう会」で切磋琢磨（せつさたくま）し合う仲間。

週に二回、勿来と山田の両公民館で腕を磨いている。昇段の原動力になったのは、白沼さんの夫で、二人より先に7段となっていた徳孝（のりたか）さん（六七）。8段を目指して市外に赴いて修練しており、サークル内では指導役を務めてきた。

錬士の称号を持つ斉藤さんは、「挑戦の終わりは、挑戦の始まり。今後も初心を忘れず、後進の育成に力を尽くしながら、生涯剣道の道を歩み続けたい」と決意。

子育てなどで中断しながらも、家族の支えで剣道を再開した白沼さんは「今回の合格が、これから剣道を志す若い世代や女性剣士の励みになればうれしい」と話していた。

新たな道へ一歩 准看、16人が卒業 学び続けます

いわき市医師会附属いわき看護学校（石井敦校長）の卒業式が三月一日、平、いわきワシントンホテルで開かれ、卒業生十六人（女子十四人、男子二人）が新たな道へ一歩を踏み出した。

石井校長が卒業生一人一人に卒業証書を手渡し、「四月からは理想とのずれを感じるかもしれないが、それがまっとう。劣等感を抱かず、支え合いながら



卒業証書を受け取る卒業生

成長してほしい」と、はなむけの言葉を贈った。

齊藤道也市医師会長らのあいさつなどに続き、卒業生代表の女子学生が「医療ニーズや時代背景なども変わり続ける中、自分をアップグレードできるような学び続けていきます」と答辞を述べた。

卒業生たちの多くは市内外の医療機関などに就職する予定。正看護師を目指し、進学する学生もいるという。

事業継承への準備 セミナーで伝える ひまわり信金

中小企業などの後継者不足が社会課題化する中、ひまわり信用金庫は二月十八日、小名浜市民会館で「事業継承セミナー」を開いた。

地元の経営者ら約三十人が参加した。県事業継承・引き継ぎ支援センターの統括責任者、若

菜正典さんが継承の進め方と留意点について解説。

この中で若菜さんは、事業継承の方法として「従業員役員」「M&A」などの三類型を紹介した。親族内継承については、「受け入れられやすいが、身内のためか言い合いになるケースが多い。将来を見据え、話し合いをしてほしい」と強調。

ノウハウなどの知的資産もかわるため、「継承には三年から十年かかる。事前準備が重要」とも伝えていた。

同センターによると、二〇二四（令和六）年現在、県内企業の後継者不在率は約四五%で、全国平均より七ポイント低いが、七十代以上の経営者割合は二七%と全国上位。後継者不在は廃業や雇用喪失などにつながるため、地域・経済への影響が指摘されている。

事業継承について考えを深めたセミナー

